成果の説明書

(氏名)　関根 雅則	(学部)　経済学部

1　重要事項

【研究面】

今日における働き方改革が、企業の経営戦略に与える影響について研究した。わが国では、コロナ禍を経てリモートワークが幅広く普及した。もちろんリモートワークでも従業員間の知識の共有は可能だが、共有される知識は「形式知」に限定される。しかし、日本企業の強みは、現場で（対面で）「暗黙知」を「暗黙知」として共有すること、あるいは、「暗黙知」を「形式知」に変換して共有するところにある。リモートワークでは、この「暗黙知」を「暗黙知」として共有する「内面化」や「暗黙知」を対話や共同思考を通じて「形式知」にする「表出化」が困難になると考えられる。つまり、知識の「内面化」や「表出化」は、従業員が出社し直接コミュニケーションをとる方法でしか実現できない。リモートワークでは、真の意味での知識伝達ないし知識共有に限界が存在する。一方で、働き方改革が声高に叫ばれる中で、リモートワークの普及は必至である。それでは企業はこの問題をどう解決すべきなのか。平成 5 年度はその方向性を探る基礎的な研究を行った。

【教育面】

（1）学部講義

講義用の資料を Teams を通じて事前配布することにより、学生が講義の概要を予め理解できるようにした。なお、配布資料については、特に重要な部分を空欄にすることにより、講義の際に学生が手書き等で埋めるようにした。講義を理解するうえで自筆も必要であると考えたからである。また、リアクションペーパーを提出してもらうことにより、学生の講義理解度の把握に努めた。

（2）演習

①基礎演習：学生が、「戦略論」等の専門に偏らず、幅広い経営学の知識を得られるように工夫した。（例年通り）

②演習Ⅰ：いわゆる教科書だけでなく、ビジネス専門誌を多用することにより、学生が実存企業の経営戦略を理解できるよう工夫した。（例年通り）

③演習Ⅱ：学生が質の高い卒業論文を作成できるように、学術論文の書き方や理論の内容について適宜アドバイスを与えた。（例年通り）

（3）大学院講義

学生の経営戦略に対する理解の深度を高めるため、双方向の対話を前提とした講義を行った。

2　その他の事項

【学内での活動】

経済学会で副理事長を務めた。

【学外での活動】

①JA 栃木中央会からの依頼により、「職員資格認証研修会（特級）」において、「経営戦略論」の講義を行った。

②JA 栃木中央会からの依頼により、「中核人材育成研修会」において、「経営戦略（基礎理論）」というテーマで講義した。

③JA 群馬中央会からの依頼により、「戦略型中核人材育成研修会」において、「経営戦略の基礎理論」というテーマで講義した。

3　次年度以降の計画・抱負

研究面では、令和 5 年度に引き続き、働き方改革が企業の戦略にいかなる影響を与えるのかについて研究したい。

教育面では、例年通り、学生が経営戦略やイノベーションについて基礎から着実に理解できるよう、双方向型の講義ないし演習を実践したい。

その他については、今年度も、JA 栃木中央会および JA 群馬中央会から「経営戦略」に関わる講義を依頼されているのでしっかり対応したい。